

論文名：

Relation between physical fitness and oral function in community-dwelling elderly

(地域在住自立高齢者における口腔機能と体力との関連)

新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食・嚥下リハビリテーション学分野

氏名 泉野 裕美

---

## 目的

高齢者の体力と口腔機能は ADL や QOL に影響を与える。これまで咬合接触や咀嚼能力と体力との関連性についての報告はされているが、舌や口唇の動きと体力との関連性を検証した報告はあまりみられない。本研究の目的は、高齢者の舌や口唇の動きを含めた口腔機能と体力との関連性を明らかにすることである。

## 材料と方法

地域在住の高齢者 66 名（男性 24 名，女性 42 名，平均年齢  $70.3 \pm 5.9$  歳）を対象者とした。調査内容は身体機能評価として体力測定 5 項目（開眼片足立ち・長座位体前屈・ファンクショナルリーチテスト・握力・タイムドアップ&ゴー）、口腔機能評価 6 項目（舌圧・口唇圧・舌の左右運動・オーラルディアドコキネシス・咀嚼能力・反復唾液嚥下テスト）とした。口腔機能と体力との関連性を分析するため重回帰分析を行った。

## 結果

オーラルディアドコキネシス/ka/と舌の左右運動は、開眼片足立ちとの関連性が認められた。さらに舌の左右運動はファンクショナルリーチテスト、タイムドアップ&ゴーと有意な相関を認めた。また、舌の左右運動、口唇圧、オーラルディアドコキネシス/ka/および咀嚼能力は、握力に影響を与える因子となった。

## 結論

舌や口唇など口腔周囲器官を含めた口腔の機能は高齢者の体力と関連し、舌や口唇の動きの評価が高齢者の身体機能の把握に貢献する可能性が示唆された。